

緊急特集 歴史的買い場？ “黄金郷”の扉はいつ開く？

新型肺炎の世界的な広がりによって世界の金融市場はパニック状態に陥っている。NYを筆頭に史上最大の下げを見せ、短期間のうちに大きく値を崩した。PS総合指数も瞬く間に2000ペソ近く下げた。
だが、今こそ「人のゆく裏に道あり 花の山」を実践すべきタイミングだ。皆が皆、弱気の際には黙って買いの種を蒔くのが賢い投資家だ。とくにフィリピン株の場合、今のような買い場は今後10年間はやってこないだろう。

今回は歴史的な買い場の時期とタイミング、買うべき銘柄を分析してみた。(下図は3/10現在の週足・日足)

パターン分析 週足：安値下抜け 日足：安値圏 変化日 週足：4/12 日足：4/2

週足TOPテクと判断MACD Lag：売り継続



日足TOPテクと判断EMACross：売り継続



1

複製禁止。本資料はGLB.inc（以下「当社」といいます。）が情報提供のみを目的として作成したものであり、投資の推奨を行うものではありません。また、提供する情報は当社が信頼に値すると判断したものを採用しておりますが、その正確性を保証するものではありません。また、これらに基づいたお取引及びその結果について当社は一切の責任を負いません。本データは将来の利益や結果を約束するものではありません。売買の最終判断はご自身の判断でお願い致します。また、本システムは事前の告知および予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

リーマンショックに学ぶ総合指数の行方

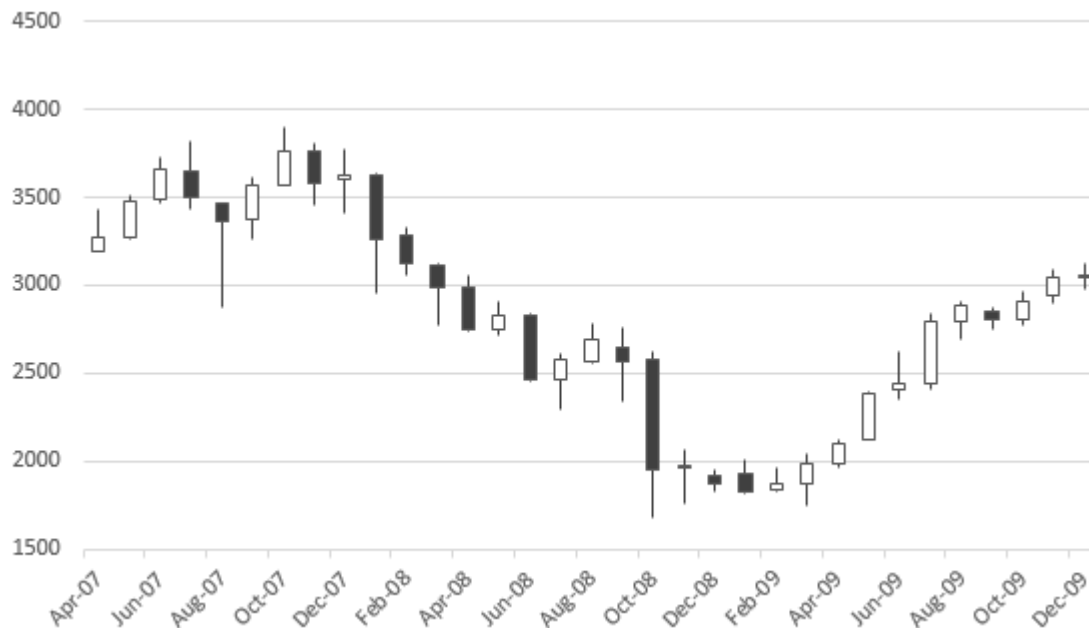
前回、世界の株しい市場を襲ったリーマンショックの時の総合指数の動きを振り返った。

【価格変動】

ピーク＝3896.74
ボトム＝1684.75
下落幅＝2211.99
下落率＝56.77%

【期間】

ピーク⇒ボトム
13か月
ボトム⇒反転
5か月



リーマンショックに現在の相場を合わせると・・・

下図は総合指数のリーマンショック時の相場に現在の動きを合わせたもの。青は18年1月高値9078.37、ブラウンは19年7月高値8419.59となっている。二番天井相場のため、18年の最高値からの検証も必要になる。チャートは2020/3/12現在。

【二番天井基準】

下値メド＝4779.6

底＝20年7月

【最高値基準】

下値メド＝5153.79

底＝19年1月

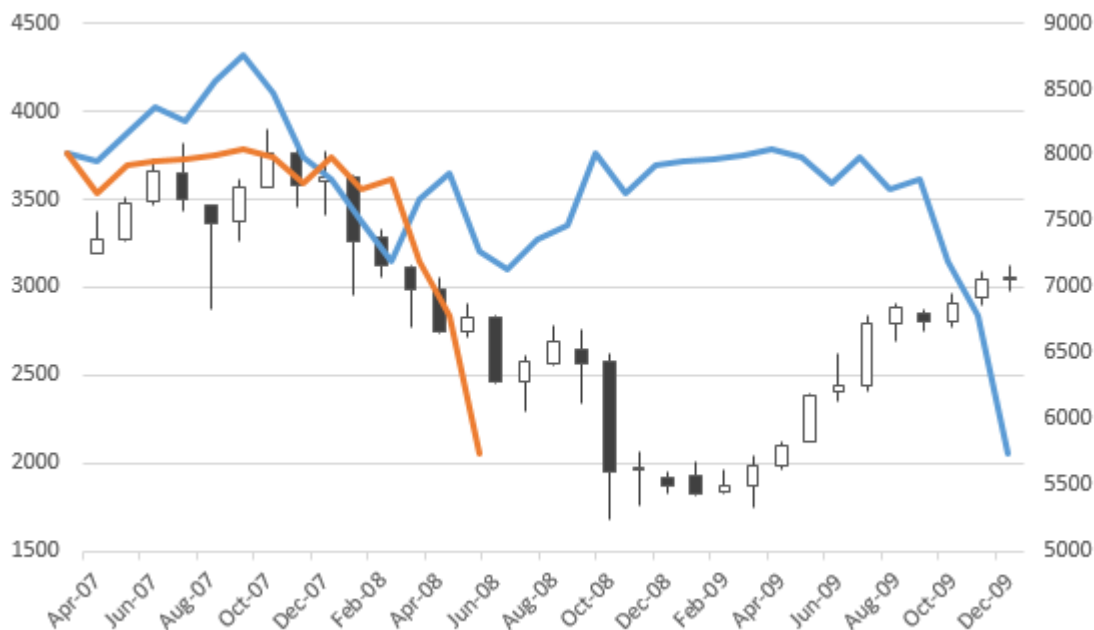
“最高値基準に戻り相場を考慮したケース”

下値メド＝5161.57

底＝20年4月

下値は4780～5160

底は20年4月



ここでの投資戦略

【現状】(3/13 12:00現在)

- ・株価は一つの下値メドである5100ペソ台まで下落
- ・日柄調整はまだ不足気味

【今後の見通し】

- ・値幅調整はある程度進展したものの、日柄不足感があるため、今後も安値を更新する可能性はある。
- ・ただし、下げピッチが速かったため、戻り始めた時には戻り売りの出ない6800ペソ前後まで一気に戻る確率が高い。

【結論】

- ・5000ペソ割れは絶好の買い場。3月下旬からは買い下がり(たとえば指数が100ペソ下がれば買いを入れる方式)で、2年後にはウハウハ状態。



買い下がりの根拠

GDPと総合指数の関係



株価はGDPに連動するというのが大前提にある。今回のコロナ禍でフィリピンのGDP成長率は多少の下振れを免れない。しかし、ほかの国との相対比較では依然としてトップクラスの成長率(5.8~6.1%前後)を維持できる。

左図を見ると、GDPラインを割り込むのは、リーマンショック以来のこと。すなわち、現在は絶好の買い場となっている。あとはタイミングだけの問題になる。

資金に余裕がある投資家なら、ここから買い始めて、数年後には大きな含み益を獲得できるはずだ。

今、買うべき銘柄はこれだ！ Part1 PERでのアプローチ

この千載一遇のチャンスを生かすために、今、買うべき銘柄を大調査した。最初はPERで買える銘柄だ。

シンボル	予PER	予配当利回り
IRC	0.377	-
ABA	0.703	12.93
GREEN	0.798	-
ALCO	2.621	1.58
LPZ	2.82	2.04
FPH	3.018	2.73
COSCO	4.1	1.05
BRN	4.2	-
CPG	4.286	1.98
HI	4.638	1.21
ROCK	4.722	3.67
EW	4.724	-
PLC	4.889	11.42
PNB	5.02	-
SHNG	5.022	3.62
IMP	5.094	-
FLI	5.28	3.47
ELI	5.333	-
MPI	5.368	3.59
MWC	5.488	6.41

コロナ禍では業績へプラスに作用する銘柄もあるが、均一に25%減益を余儀なくされるとの前提で、20年6月期のEPSを推測。それをベースに3/12現在の株価でPERが低い20銘柄をピックアップした。

このうち注目されるのは自社株買いを継続しているCOSCOやLPZ、それにMPI、MWCなどになる。

今、買うべき銘柄はこれだ！ Part2 配当利回りからのアプローチ

シンボル	予PER	予配当利回り
SPC	8.696	14
ABA	0.703	12.93
PLC	4.889	11.42
SHLPH	21.238	10.06
GMA7	11.111	6.75
BEL	6.821	6.67
GMAP	11.311	6.63
MWC	5.488	6.41
SCC	6.986	5.59
TEL	12.81	5.14
UBP	6.551	4.82
SGI	15.833	4.74
FJP	108.333	4.61
PSB	7.912	4.48
CDC	6	4.46
CLI	6.636	4.43
PPC	8.358	4.28
GLO	14.225	4.11
LAND	7.692	4.03
PHN	42.773	3.74

コロナ禍では業績へプラスに作用する銘柄もあるが、均一に25%減益を余儀なくされるとの前提で、20年6月期のEPSを推測。それをベースに3/12現在の株価で現在の配当性向が維持されるとしての配当利回りを試算した。

このうち株式の流動性を考慮するとGMA7、MWC、TEL、CLIなどに注目したい。

10年に一度の買い場を逃さないようにしてもらいたい。